

## 「お母さんの左手」

米島 夏綾

わたしのお父さんは、はたらいっていない。その代わり、そうじやせんたく、ごはんを作る家事をしてくれる。わたしにとって、お父さんがいつも家において、家事をすることは当たり前だけど、スーパーの店員さんや友だちのお母さんたちからはふしぎに思われている。今まで何回お父さんの仕事は何、と聞かれたかおぼえていない。それでもお父さんはいつも笑っている。気がつくともわたしも笑っている。わたしはそんなお父さんが大好きだよ。

ある日、めずらしくお父さんが笑ってくれない事があった。その日は、いつもの様にわたしとお父さんと公園に遊びに行った。しばらく遊んでいると、おまわりさんが四人あわてた様子でわたしたちの所へ来た。お父さんがわたしをゆうかいしようとしていると、だれかがつうほうしたらしい。さすがのお父さんもこの時はおちこんだらしく、今夜は飲みたい気分、と言ってコーラを一口だけ飲んでむせていた。お父さんは、お酒もたんさんもきらいで、この時しか飲んでいるすがたを見た事がない。わたしの前ではいつも笑っていて、やさしいお父さん。いやな事があつたらまたコーラ飲んでね。

お父さんが家事をしているのには理由がある。お母さんの左手だ。わたしのお母さんは、生まれた時から左手が思うように動かせない。物を持つ事もつかむ事もすぐ大へんだ。お母さんがわたしをけがさせない様に、お父さんとお母さんはわたしが生まれてくる時に、役わりを交代しようと決めた。だから、わたしの家ではお父さんが家事を、お母さんがはたらいている。

お母さんを見ただけで、左手が動かないと分かる人はいないだろう。外見では、わたしの左手と何もかわらない様に見える。だから、左手が動かない事を分かってもええ、いやな事をされたり、言われる時がある。それでもお母さんもいつも笑っている。いやな事を言う人よりも、手つだつてくれたり、やさしくしてくれる人の方が多から、お母さんは人に感しゃして笑顔でいる事を大切に行っている、と教えてもらった。

新がたコロナウイルスのせいで、学校に行けなかったり、友だちに会う事もできなかったけど、お父さんとお母さんがいつもそばにいてくれたからぜんぜんつらくなかったよ。毎日、おいしいごはんを作ってくれてありがとう。お父さんの作るごはんが、世界で一番おいしいよ。

お母さん、いつも東京まではたらしきに行ってくれてありがとう。あたしもお母さんに負けない様にべん強がんばるね。

そして、お母さんの左手。あなたのおかげで、わたしの家は明るくて毎日楽しいよ。これからも、たくさんお手つだいするからね。ふつうに動かないかもしれないけれど、わたしはあなたが大好きだよ。わたしにとって、あなたはだれよりもすてきな左手だよ。本当に、ありがとう。

## 評価のポイント

構成力が素晴らしい。両親のことがしっかり書けており、読むとシーンが浮かんでくる。